

別記様式

		担当課	総合政策課		
会議の名称	令和5年度第2回鴻巣市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会				
開催日	令和5年11月16日(木)				
開催時間	午前10時00分～午前11時30分				
開催場所	鴻巣市役所 1001会議室				
議長(委員長・会長)氏名	なし				
出席者(委員)氏名 (出席者数)	戸ヶ崎 明彦 吉田 大樹	河野 廣 小林 美鈴	佐藤 芳隆 池口 紘平	藤村 郁夫 伊藤 恵	計8名
欠席者(委員)氏名 (欠席者数)	佐藤 百合子 新田 純康	田尻 要 西岡 利浩	木部 雅夫	横山 敏也	計6名
事務局職員職氏名	市長政策室長 総合政策課長 総合政策課主任	藤崎 秀也 富田 真久 榎 勇太	市長政策室副室長 総合政策課主幹 総合政策課主任	沼上 勝 千葉 昌子 大島 悠志	
傍聴の可否 (傍聴者数)	可(0名)				
会議の内容	1 開会 2 あいさつ 3 委員紹介(自己紹介) 4 議題 (1) 第2期鴻巣市まち・ひと・しごと創生総合戦略について (2) デジタル田園都市国家構想総合戦略について 5 その他 6 閉会				
	【次第4 議事】 (1) 第2期鴻巣市まち・ひと・しごと創生総合戦略について、基本目標ごとに令和4年度の実績値をもとに進捗状況を報告し、委員から意見をいただいた。 ●基本目標① 結婚・出産・子育てをしたいと思いますまちづくり ・保育サービスに満足している保護者の割合が97.4%という数値は評価できる結果であるが、満足しているという指標は主観的な指標であるため、例えば、保育サービスが女性の就労やキャリア形成に寄与し、その結果として満足につながっているとといった具体的な結果がわかるとよい。 ・子育て不安の軽減について、養育相談の充実により相談件数が増加したということだが、PTA等の日頃の活動の中で相談できるような人との繋がりを作ることも重要であり、こうした土台の上に行政支援があるといった考えが必要である。 ・進捗状況で示す数字は大人へのアンケートの結果であるが、子どもの声は異なる結果だと感じている。子育てサービスというものは、大人寄りの立場に立ったシステムであり、病児保育についても、子どもが熱を出して苦しんでいるのに就労しなくてはいけない状況を見ると、子どもの立場に立ち、早く迎えに行けるように保護者のその日の賃金を補助するなど、子どもが安心できるシステムを作る				

ことも大切である。

・学校・家庭・地域の連携について、登下校の見守りや放課後子ども教室など、様々なところで高齢化が進んでおり、60歳以上でも仕事をされている方も多く、各学校からスタッフがなかなか見つからないという声があがっている。

・地域差があるものの登下校時の旗振りも担い手がいないのが現状であり、根本的な要因は地域との関係の希薄化だと感じている。コロナによってPTAの活動を縮小し、地域との関係が1回切れてしまったが、保護者と地域の接点を作っていくような活動を増やしていくことで、地域との連携はより進むと考えられる。

●基本目標② 住みたい、住んでよかったと思えるまちづくり

・シティプロモーションについて、鴻巣市のコンパクトシティ化は優れていると感じており、実際に住みよいまちという視点で発信したほうがよい。子育てに関しても、悩みを抱えている保護者や、これから子どもを産もうとしている方々に、共感を持てるような発信が必要である。

・二酸化炭素の排出を減らすことについて、農政課が毎年行うアンケートに同封されていたチラシに、「稲刈りが終わったあとの11月に田んぼを耕耘することで、鴻巣市の二酸化炭素の排出が減らせるため、早めの耕耘をお願いします」といった案内があり、大変よい取組と感じた。

●基本目標③ 人口構造の変化に対応した健康で安全・安心な地域づくり

・小さい頃から身近に体を動かせる環境を整備することは、大人になっても継続的に体を動かすことにつながり、それが健康寿命にもつながるため、子どもの体を動かせる場所の整備を出発点に健康を捉えていくということも必要である。

・防犯カメラについては、犯罪を抑制するために重要であり、登下校時の不審者対策として学校周辺の道路などに設置することで、保護者の安心にもつながる。

・自治会については、役員の高齢化が進んでいることや加入率の低下など、様々な課題を抱えている。広報の配布は高齢者の負担となっていることに加え、自治会に入らないと地域の情報が入手できないため、情報共有のデジタル化を進めるなど、自治会のあり方について考え直す時期である。

●基本目標④ まちのにぎわいと活力をもたらす産業基盤の充実したまちづくり

・起業の支援については、固定で低利な商品も多く、今は融資の要件が少なく間口が広がっているため、金融機関と連携しながら支援ができればよい。

・まちのにぎわいについては、街中も高齢化が進んでおり、中山道の商店もシャッターが下り飛び飛びになっていることは賑わいの低下につながるため、空き店舗の活用を進めることは重要である。

・中山道の賑わいについては、そこに行く目的を作ることが重要であり、生活する上で必要なものがあれば、それに付随して賑わいを創出することができる。

・遊休農地の増加については、高齢で農業をやめたいという方も多くいる中、若い方でも農家を継いで大きく農業をやられている方もいるので、そのような方とマッチングできる仕組みがあるとよい。

・農地の維持管理にあたっては、農地の草刈り等に多面的機能支払交付金等を活用するなど、地域で組織をつくり維持していくことが有効である。

(2) デジタル田園都市国家構想総合戦略について事務局から説明。

配布資料

- ・次第
- ・令和5年度 第2回鴻巣市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会出席者
- ・令和5年度 第2回鴻巣市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会座席表
- ・令和5年度 第2回まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会レジュメ
- ・総合戦略に紐づく主な事業